

強風時の自動着陸^{など}確認

大樹 神戸大が無人飛行船実験



自動着陸を主に実験が進む神戸大の自律型無人飛行船

同飛行船は全長12メートル、回転型ステレオカメラや地球測位システム(GPS)、風速センサーを搭載。災害時の初期の情報収集手段の一つとして開発が進められ、決められたルートの自律飛行が重要という。同公園での実験は2006年に開始。当初2年は飛行訓練を主に、08年からほせコム科学技術振興財団(東京)の助成を受けて自動着陸に重点を置いている。今回は強風時にも着陸が可能かどうかの確認を目的に、深尾准教授と学生ら計8人が7月28日に来町。実験場所には、独立行政

法人・宇宙航空研究開発機構(JAXA、東京)の飛行船格納庫も使用している。基本性能の確認後、今月3日から主に着陸を制御する実験に移った。同飛行船を上空50〜60メートルから約20分まで降下させることを10日ごろまで繰り返し、地上風速5〜7メートルの強風時にも着陸できるかを試している。深尾准教授は「20分ほどまで確実に降下でき、実験は順調に進んでいる。4年目を迎えて飛行船の制御が向上し、実用的なものが出てきている」と話している。実験は8月中旬まで。ほかに、従来より解像度の高いステレオカメラを搭載し、距離情報を獲得できるかも実験する。(佐藤圭史)

【大樹】神戸大学院工学研究科の深尾隆准教授(情報学)と学生らが、大規模災害時の被災状況の情報収集を目的とした「自律型無人飛行船」の実験を、

町多目的航空公園で行っている。同公園での実験は4年目。今回は強風時の自動着陸や、ステレオカメラを使用した情報収集の向上を図っている。

相模原市議会

航空宇宙実験場^{など}視察



者と相会(左)関係する議員(右) 相模原市議員 榎原 誠一

国4市1町の交流を目的に発足。宇宙科学知識の普及や子供交流事業、自治体行事での特産物即売会などを展開している。

来町したのは、同市議会の与党会派「新政クラブ」(久保田義則会長)の議員10人。初日は町役場で伏見町長や町議らと懇談。伏見町長は「銀河連邦加盟によって大きな効果がある。宇宙を通じ、いろいろな活動を進めたい」とあいさつ。銀河連邦や議会活性化、合併問題などについて意見交換したほか、久保田会長が伏見町長に加山俊夫相模原市長の親書を手渡した。久保田会長は「大樹町は人が柄がいいイメージ。新たに銀河連邦に加盟することで、経済効果も期待できる」と話していた。

(佐藤圭史)

【大樹】神奈川県相模原市議会(岸浪孝志議長)が、4の同日、視察のため来町した。町が来年4月に加盟予定の「銀河連邦」の本部が同市にあることから実現。視察団は伏見町長と町議らと懇談したほか、大樹航空宇宙実験場などを回った。銀河連邦は1987年、宇宙科学研究所(当時、ISAS)と現JAXA宇宙科学研究所との研究施設がある全

ていた。